土佐日記（門出）　＊

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。［50点］

男もすなる日記といふものを、女もしてみむとてするなり。それの年の十二月の二十日あまり一日の日の戌の刻に、門出す。そのよし、いささかにものに書きつく。

ある人、県の四年五年果てて、例のことどもみなし終へて、解由など取りて、住む館より出でて、船に乗るべき所へ渡る。かれこれ、知る知らぬ、送りす。年ごろよくくらべつる人々なむ、別れがたく思ひて、日しきりに、とかくしつつ、ののしるうちに、夜更けぬ。

二十二日に、和泉の国までと、平らかに願立つ。藤原のときざね、船路なれど、馬のはなむけす。上中下、酔ひ飽きて、いとあやしく、潮海のほとりにて、あざれ合へり。

二十三日。八木のやすのりといふ人あり。この人、国に必ずしも言ひ使ふ者にもあらざなり。これぞ、たたはしきやうにて、馬のはなむけしたる。守柄にやあらむ、国人の心の常として、「今は。」とて見えざなるを、心ある者は、恥ぢずになむ来ける。これは、物によりて褒むるにしもあらず。

二十四日。講師、馬のはなむけしに出でませり。ありとある上下、童まで酔ひしれて、一文字をだに知らぬ者、しが足は十文字に踏みてぞ遊ぶ。

問一　二重傍線部ア～ウの漢字の読みを現代仮名遣いを用いて平仮名で書きなさい。

問二　傍線部ａ～ｄの助動詞の文法的意味として適切なものをそれぞれ記号で答えなさい。

ア　伝聞　　イ　断定　　ウ　完了　　エ　打消

問三　波線部Ａ～Ｄの語句の意味を書きなさい。

問四　傍線部①「ある人」について次の(1)、(2)に答えなさい。

(1)　「ある人」とは具体的にはこの作品の作者のことである。姓名を漢字で答えなさい。

(2)　作者が自分のことを「ある人」とした理由について適切なものを選び、記号で答えなさい。

ア　作者像を女性に仮託した以上、役人の実態について詳しく書くことができないため。

イ　作者像を女性に仮託し、虚構も交えながら自由に書いていくため。

ウ　記録としての日記ではなく、物語風に設定をして書いていくため。

エ　役人としての実態を詳しく記すためには匿名にしておくべきだと考えたため。

問五　傍線部②「潮海のほとりにて、あざれ合へり」について次の(1)～(3)に答えなさい。

(1)　ここでは「あざる」に二つの意味が込められている。それぞれ語意を答えなさい。

(2)　この表現の特徴を説明した文章として適切なものを選び、記号で答えなさい。

ア　年齢や身分の差を越えて交友関係を温める人間らしさを描いた表現。

イ　たった一人でさびしげな海辺にさすらっている作者の苦悩に満ちた表現。

ウ　塩のきいた海なのに腐っているという言葉の矛盾をおもしろがる表現。

エ　これから出発する船旅に期待を抱いている作者を描いた楽しげな表現。

(3)　本文中から(1)と類似の諧謔表現を二か所探し、それぞれの初めと終わりの三文字を答えなさい。（句読点不要）

問五		問四	問三		問二	問一
(3)	(1)	(1)	D	A	a	ア
					b	
		(2)			c	イ
〳						
					d	
	(2)					
				B		ウ
〳						
				C		

学年
組
番号
氏名
得点

土佐日記（門出）　＊

〔出題の意図と留意点〕　有名な冒頭部分については、暗唱して詳細な品詞分解も施せる程度に習熟したい。基本的な文法事項や古典常識を確認しながら、教養として本文全体の内容を理解しておくことが大切である。設問要求にきちんと答える形で解答を作成してもらいたい。

☆解答例と配点

問一　ア　しわす　イ　あがた　ウ　げゆ　〈2点×3〉
問二　a　ア　b　イ　c　エ　d　ウ　〈2点×4〉
問三　A　午後八時頃　B　長年の間　C　大騒ぎする　D　立派な　〈3点×4〉
問四　(1)　紀貫之　〈3点〉　(2)　イ　〈5点〉
問五　(1)　ふざける・腐る　〈3点×2〉　(2)　ウ　〈4点〉
(3)　船路な～むけす・一文字～ぞ遊ぶ　〈3点×2〉
計50点